

# 地教連ニュース

2002-1-18

事務局 エルムアカデミー 〒142-0053 品川区中延 5-6-14-2f  
03-3784-5676 Fax03-3784-5609 elm@kiwi.ne.jp  
Yzwhiro@aol.com (矢沢：地教連事務局担当)  
地教連ホームページ <http://www.tamagaku.com/chikyoren/>

あけましておめでとうございます。遅い新年のご挨拶で恐縮しております。

## 新年学習会と新年交流会のご案内

さて、2002年度の地教連活動の幕開けは、今までと少し趣を変えて、CAPのスペシャリストによるワークショップ形式での学習会を開催します。

CAPとはアメリカで生まれた、Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の略で、CAPプログラムはわかりやすい人権概念を教え、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力に対して何が出来るかを子ども、親、教職員、地域の人々に教えるプログラムです。(詳細は以下の紹介文を参照してください)

地教連としてもワークショップ形式の新しい学習会を経験して、子どもたちへの人権教育のあり方をいつもとは違った角度から考えていきたいと思っています。

今回のプログラムの内容は教職員だけでなく、父母の方も参加されると良い企画だと思いますので、父母の方への参加の呼びかけも、ぜひお願いいたします。

また、新春交流会では、お酒も酌み交わしながら、今後の塾のあり方や地教連活動、新しく動き出している若者達の運動などについての意見を出し合っていきたいと思っています。ぜひ、ご参加下さい。

### 新春学習会

日時:2月3日(日)午後1時45分より

場所:品川区荏原第4集会所(東急大井町線荏原町駅下車目の前)

内容:CAPユニットによる「おとなワークショップ」

<CAPのHPより転載>

「おとなワークショップ」は、子どものためのプログラムの内容を説明するとともに、子どもたちの安全な暮らしのためにおとなにできること、子どもをどのようにサポートするかを具体的に提案します。

参加費:地教連会員・地教連会員塾の父母・学生は無料、他は500円

### 新春交流会

日時:2月3日(日)午後5時より

場所:荏原町駅周辺(会場から数分のところ)

参加費:3000円程度

会場の関係で1月末までには参加人数を事務局、エルム矢沢までご連絡下さい。

## <CAP・JAPANのHPより転載>

【CAPのなりたちと歴史】

CAPはアメリカで生まれました。

CAPはChild Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の略で、CAPプログラムはわかりやすい人権概念を教え、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力に対して何が出来るかを子ども、親、教職員、地域の人々に教えるプログラムです。

このプログラムは1978年にアメリカのオハイオ州コロンバスにあるレイプ救援センター(Women Against Rape)で開発されたものです。そこでは24時間体制で被害者支援にあたり、女性のためのレイプ防止プログラムを提供していました。

1978年、コロンバスのある小学校で女子生徒が登校途中にレイプされ、学校中が不安と恐れでパニック状態に陥りました。保護者は子どもが二度と被害にあわないように車で送り迎えをしたり、一人で遊ばせないようにしました。子どもたちはこのような雰囲気の中で次第に気持ちが悪くなり、おねしょをしたり、夜うなされたり、一人でいるのを怖がるなど子どもがおびえる時の典型的な行動がみられるようになりました。この状況を心配した一人の女性教師が、子どもたちの安心感を取り戻すように力になってほしいとレイプ救援センターに相談し、それがきっかけで児童発達専門家、心理療法家、医師、親、教育者、演劇専門家の協力のもとにプログラムの原型が生まれました。このプログラムを実施したところ、子どもたちはそれまで恐れていた問題について率直に話してくれるおとなに出会ったことを喜びました。こうしてCAPプログラムの効力、防止策の必要性、子どもたちの学び取る力を知ることができました。

その後、研究と改良が重ねられ改善されていったものが現在のプログラムです。

CAPは世界15カ国に広がっています

CAPプログラムは、アメリカ国内200以上の市や町の公立、私立の幼稚園から高校までの授業のカリキュラムのひとつとして実施されています。アメリカ国内での広がりにはフェミニストの女性たちが大きな役割を果たしています。国外ではカナダ、コスタリカ、クロアチア、イギリス、ドイツ、バハマ、アイルランド、日本、キルギスタン、モルドバ、オランダ、ニュージーランド、スロヴェニア、ユーゴスラビア、で実施され、世界15カ国に広がっています。

日本に紹介されて15年、グループの数は100を超えます

日本には1985年、森田ゆりが初めてCAPを紹介しました。それにより東京、大阪、広島、熊本などの地で主に女性たちが、手探りの中でプログラムを実施しました。

1995年に、CAPプログラムを実施できるCAPスペシャリストの養成が始まり、養成訓練を受けたCAPスペシャリストは各地域で独自にグループを作り活動を始めました。

現在、北海道から沖縄まで100以上のグループがあり、それぞれに各地の学校や社会教育、福祉施設などで子どもにもおとなにも楽しく分かりやすい防止教育を行っています

CAPセンター・JAPANは、各グループのネットワークセンターとして1998年に設立され、全国90以上のグループの支援活動を行っています。

センターが実施した統計調査(1999年4月~2000年3月)によると、この1年間にCAPプログラムを受けた子どもは約76,000人、おとなは約82,000人でした。大阪府、東京都葛飾区など行政の積極的な支援を受けている地域もあります。その中には、市内の全中学校、全小学校、全幼稚園でCAPプログラムが実施されているところもあります。

## 第17回子育て文化協同全国交流研究集会参加のご報告

「僕たちの働き方・学び方、そして生き方」分科会に参加したみたかの山本賢司さんからのレポートです。

12月8～9日、岐阜で開催された「子育て文化協同 全国交流集会」に YCP (Youth Careers Programs = 仕事と青年をつなぐための職業教育プログラム。国際青少年育成財団《IYF》から「Children's Hour 募金」の助成を受け、今年度はプログラム開発を主眼に展開中)に関わるメンバーと一緒に参加してきました。

参加した分科会(第12分科会/12月9日)のテーマは「私たちの学び方・働き方、そして生き方」。厳しさを増し即戦力志向を強める労働市場の状況は、図らずも多くの青年に「競争や立身出世の社会とは違う、もう一つの生き方・働き方があるはずだ」という気持を芽生えさせています。しかし、その要求を満たせる世界との出会いは少なく、「宙ぶらりん」な状態であることも確かです。「この先」が見えない状況は、不登校・引きこもりの経験のある青年にも言えることです。12分科会では、主に不登校・引きこもりを経験した青年が、どうやって「次のステージ=仕事の世界」とつながっていくか(あるいは仕事の世界をつくりだしていくか)という問題意識から実施されている全国の事業を報告し合い、そこに、同じく「この先」が見えずにいる大学生などが参加し、同時代を生きる仲間としての話し合いがもたれました。

午前中、当NPOから「School to Work」セミナーと「ホームヘルパー3級養成講座」について、なぜそのような事業が必要になってきたかと合わせて報告しました。次に岐阜で引きこもり経験のある青年を対象とした「真塾」の堀さんから、INAXから仕事を受注し、「お互いの自律の為ともに働き、生活費や自然保護活動、福祉活動などの一助とする」目的で、「自然学舎 工房」の設立に向けて活動していることが報告されました。休憩を挟んで、『カンパネラ』でも取り上げた千葉の「ニュースタート」の田嶋さんから、引きこもり本人が共同生活をおくる「若衆宿」、実際に働く経験をする「福祉コンビニ」「喫茶『縁側』」など多様な活動について報告がありました。

「自立」「社会参加」「School to Work」と、これらの事業の目的は多岐に及び、それは事業体の間でも、同時代を生きる青年の間でも共有できるものでした。この発見(というか確認……でしょうか)が、一番の成果と言える気がします。なぜなら、同じ問題意識の者同士が知り合いネットワーク化されることは、「今までとは違う、もう一つの仕組み」を広く社会に根づかせ、また、行政などに訴えていく際のチカラになるからです。

もちろん、YCPに反映できる具体的なプログラムのイメージについて先行事業から学ぶことができたのも大きな成果です。「やりたいこと探しをサポートするプログラム」というより、「できること探し」と「できることを広げるサポート、その条件づくりのプログラム」。迷走する「自分探し」を支えるには、そういうスタンスの方がいいのかもしれないなあ……という気がしてきています。

最後に、分科会に参加した全国の青年ネットワーク(要するにメーリングリストなのですが)がつくれたことも成果です。悩みを共有し、また、全国の実践や事業をタイムリーに交流できることは、草の根からの運動を進める大きな力になることでしょう。

なお、この集いを機に、岐阜の学習サークル(代表 鳥本和裕)が地教連に入会しました。

また、雑誌「教育」の10月号の丸山さん記事を読んで、北海道帯広市の哲塾(テツジユク)(高橋哲(サトシ)も入会しました。

今後新入会の方の自己紹介も紙面に取り入れていきたいと思っています。

## 会費納入のお願い

2001年度(2000年度も含めて)の会費をお納め下さい。今年度分はまだ数口しか納入がありません。会を支えるためにも納入をお願いします。(請求書は順次発行していきます)

振込先:郵便局の総合口座 記号10030 口座番号64626421 地域教育連絡協議会  
郵便局の総合口座をお持ちの方はお近くの自動振り込み機械から130円で振り込めます。

**団体会費 10000円(専任職員が2人以上いる団体に適用)**

**個人会費 4000円**

**賛助会費 2000円**

**学生賛助会員 1000円**

請求会費の納入のない方は、ニュース等の配付を停止させていただくこともあります。あしからず、ご了承下さい。

## 地教連の秋の研究交流集会の報告

10月28日(日)に開催された2001年研究交流集会のレポートが、雑誌「教育」2月号に掲載されています。

地域教育連絡協議会 秋の研究集会に参加して 鏡 一太 エルムアカデミー

## 経費節減、御協力をお願い

昨年に引き続き、方針通り、通信をEメールで送付したいと思います。アドレスをお待ちの方は、Yzwhiro@aol.comまで「地教連メール」と入れて下さい。団体の方は団体の職員の方にも配信をします。個人のメールアドレスもお知らせ下さい。

会費を今回値下げしました。アドレスのある方は経費削減のためにアドレスの登録をぜひお願いします。なお、アドレス登録された方は、郵便でのご連絡は割愛させていただきます。

地教連のメーリングリスト(ML)も運用しています。

MLに加入すると加入者相互に意見の交換などが容易にできます。また、地教連や各地の情報もリアルタイムで入手できるのでとても便利です。

加入希望の方は webmaster@tamagaku.com (多摩学習センター:地教連ホームページ担当)まで

地教連参加塾のホームページアドレス一覧は地教連HPをご覧ください。

# 地 教 連 情 報

2002-1-18

## 「ひきこもり」問題の解決と支援のためのアンケート調査のお願い

臨床教育研究所「虹」(尾木直樹所長)では「ひきこもり」問題の解決と支援のためのアンケート調査を実施しております。対象として次の方を「ひきこもり」と考えていますので、

「とくに精神的な障害がきっかけではなく、自宅や自室に6ヶ月以上の長期間ひきこもって社会参加できないでいる中学卒業段階以降の青年の状態」

(注)現役の小・中学生の「不登校」は含みません。

該当する方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。こちらからアンケートを郵送します。よろしくご協力をお願いします。

## 第47回子どもを守る文化会議のご案内

子どもの、おとなの、心がひびきあう21世紀を!

子どもの権利条約を草の根からの運動で現実に

第1日目 全体会 2002年2月23日(土) 13:00-16:00(12時半開場)

石和観光温泉ホテル慶山

記念講演「人間であること」とはー 寺嶋 萬里子氏(写真家、医師)

～ハンセン病療養所に5年通って～(写真展もあり)

文化企画 大型紙芝居「さくら座」(山梨市)

第2日 分科会 2002年2月24日(日) 9:00～15:00

石和観光温泉ホテル慶山・県立勤労青年センター・リバーズ和戸

分科会テーマ

乳幼児の発達保証

障害児・者の発達保証、地域づくり

子どもの学びと学力問題

地域の生活と文化をつくる

親・子どもの教育参加

子どもの健康を守るための環境をつくる

安心と自由の学校 子育てを考える～不登校、中退、ひきこもり、虐待の視点から～

平和の文化を創造する

子どもの人権と社会保障制度

青年の広場

参加費：一般参加 2,000円 大学生・大学院生 1000円(資料代含む)

高校生以下無料

## 生徒と父母と教職員でつくる私学のつどいのご案内

とき 2002年2月17日(日) 9:30開場

場所 正則高等学校(営団日比谷線 神谷町駅下車、都営三田線)

全体会 10:00～12:30

父母と教員の寸劇

「裁判・私学助成署名妨害禁止の申し立て」

記念講演 山田洋次

「『学校』シリーズを撮る私の思い」

高校生の創作劇

昼休みコンサート

分科会 14:00～16:30

テーマ別教育懇談会

第1分科会 「いじめのない仲間づくり」(本音で話し合ったことがありますか)

第2分科会 「不登校を考える」

第3分科会 「現代の中学生とどう向き合うか」

第4分科会 「生徒会を語ろう」

第5分科会 「三者で関わる学校づくり」を考える

第6分科会 「進路」

第7分科会 「平和とは個性に輝くこと」(活かす憲法 日本国憲法は人類の宝)

第8分科会 「魅力ある学級懇談会とは」(クラスの様子が見えますか?)

第9分科会 「今こそ熱く語ろう私学助成運動」

第10分科会 「こどもたちの心とからだ」

いきいき面白セミナー

総合学習

数学 「光の偏光の不思議!」

社会 「日本の歴史をどう振り返るか - 『新しい歴史教科書』を読んで - 」

理科 「万華鏡とフーリエの独楽」

特別分科会

「なぜ増えるフリーター」 - 親、教師はフリーターをどう考えるか -

「男女平等教育って何だろう」 - 学校で、家庭でみられるジェンダー・バイアス -

「教育課程を考える」

## 地教連ホームページ

地教連ホームページには地教連の最新情報や各塾の行事なども掲載されています。ぜひ、アクセスして下さい。

アドレスは [hppt://www.tamagaku.com/chikyoren](http://www.tamagaku.com/chikyoren)

地教連のHPに情報を掲載したい方は直接ウェブマスターの後藤さんにご連絡をお取り下さい。HPよりメールが送れます。